

「北九州市立『学びの多様化学校』基本計画（案）」に対する 市民意見募集の結果について

1 意見募集期間

令和7年12月24日（水曜日）から令和8年1月23日（金曜日）まで

2 意見提出状況

- (1) 意見提出者 10名（メール1名、FAX1名、オンライン8名）
 (2) 意見の概要及び本市の考え方

【反映結果】

- ① 意見の趣旨が基本計画（案）に記載されていると考えられるもの
 ② 基本計画（案）に追加・修正するもの
 ③ 基本計画（案）に追加・修正しないが今後の参考にするもの
 ④ その他

No	意見の概要	本市の考え方	反映結果
北九州市立「学びの多様化学校」設置の背景に関すること			
1	なぜ新設するのか。各教育支援室でも十分にご対応いただいていると思う。各学校で不登校生徒に対応できる環境を整える方が先ではないか。	全国と同様に、本市においても不登校児童生徒数は増加傾向にあり、一人ひとりの状況は様々です。本市では、これまでも様々な不登校支援・対策を講じてきましたが、「在籍校には登校しづらけれど、『学校』で人と関わりながら学びたい」と願っている子どもたちにとっての学びの場の選択肢が乏しい状況でした。学びの多様化学校（以下、「本校」という）の新設によって、そのような子どもたちの新たな学びの場の選択肢を増やすとともに、既存の支援策（教育支援室等）との連携も深めていくことで、本市における不登校支援・対策の一層の充実を図ることができると考えています。	①
北九州市立「学びの多様化学校」に関すること			
【学校コンセプト】			
2	学びの多様化学校は、とても良い事だと思う。様々な理由で学校に行けない子は沢山いる。少し変わった子でも受け入れ、その子の好きな事を学び、伸ばしてあげられるような笑顔が絶えない場所にしてほしい。	本校の設置にご賛同いただき、ありがとうございます。本校では、「自分らしさ」がふくらみ、ともに花ひらく学校」というコンセプトに基づき、生徒一人ひとりの個性や意思を大切にします。総合的な学習の時間「発見!kita究（仮称）」では、自分の“好き”を見つけ、一人で深く追究したり、同じ“好き”をもつ仲間と集い、チームで協働しながら追究したりする学習を展開していきます。	①
【学校の概要】			
3	小倉南区や門司区からだと八幡西区相生町はかなり遠く、子どもだけで通うのは不可能で、親の送迎も難しい。小倉南区や門司区からも通いやすい場所にもできるとよいと思う。	設置場所については、不登校の子どもにとって学校以外の施設の方が通いやすいという声があること、理科室や調理室等の特別教室を備えており、良好な教育環境を確保可能であること、本校の開校に高いニーズがある中で、既存施設の活用により早期開校が見込めることなどを総合的に勘案し、教育センターに決定しました。また、徒歩圏内にグラウンドを備えた公園や体育館があり、授業等で活用することも今後検討していきます。	③
4	バス、鉄道いずれを利用して通学可能な場所を求める生徒や保護者もおられるのではないか。		
5	市内どこからでも公共交通機関で通いやすい、通学に治安の心配がない、グラウンドなど運動できる設備がある場所がよい。		

6	学びの多様化学校の設置、開校に賛成する。開校予定の北九州市立教育センターへの交通アクセスは西鉄バス「相生町」や「竹末」から徒歩約5分ではあるが、筑豊電鉄「穴生駅」からは徒歩で約10分程度を要し、何らかの体調や不安を抱える生徒にとって不便なところもあるのではないかと。	本校の設置にご賛同いただき、ありがとうございます。通学手段については、徒歩や公共交通機関に加え、保護者による車での送迎なども生徒の状況に応じて柔軟に認める方向で検討しています。なお、登校については、遠方から通学する生徒への配慮も含め、始業時間を一般の中学校よりも1時間程度繰り下げる予定です。	③
7	遠い子は親のサポートが必要。たとえ一人で通えるとしてもアクセスしづらく、交通機関の乗り換えだけでも体力、精神的な負担が大きく、交通費の負担も親にかかってしまう。交通費の補助金があることが望ましい。	本校への(転)入学については、お子様の希望を踏まえた上で、保護者の方の申請に基づいて行われるため、通学に要する費用は保護者負担とすることを想定しています。	③
8	学びの多様化学校に通学しても学校に馴染めない事で不登校になった場合、どのような対策をとるのか。以前通っていた中学校へ戻ることは可能なのか。	本校に(転)入学後は、基本的には卒業まで在籍していただくことを想定しています。安心して学校生活を送ることができるように、在籍する生徒に対しては、個別の状況にも応じ、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かな支援をしていきます。	③
9	希望生徒はどのような不登校生徒を想定しているのか。	現時点では、以下の要件を全て満たした上で、本校への(転)入学が適当と判断された生徒を対象として想定しています。その他の要件や具体的な手続については、今後、検討会議の議論を踏まえて正式に決定します。 ① 北九州市内に居住している。 ② 前年度に不登校(年間30日以上欠席)、または不登校傾向が見られる。 ③ 本校の特色を理解した上で、生徒本人と保護者が(転)入学を希望し、登校して学ぶことへの意欲をもっている。	①
10	小倉地区等の人は自宅から遠いが、学びの多様化学校への転校を希望することは可能か。		
11	現在の不登校児童生徒数から考えると、受入人数は不登校児童生徒数に対し、約1.8%となっている事から応募が殺到することが考えられるが、そうなった場合、受入人数を増やす事を検討しているのか。増やす場合の職員の増員はどのように考えているのか。	本校は、「在籍校には登校しづらいけれど、『学校』で人と関わりながら学びたい」と願っている子どもたちにとっての選択肢の一つだと考えています。各学年15名程度、全校で50名程度という本校の規模は、他都市の先行事例を参照しつつ、本校のコンセプトや特色を踏まえた教育を適切に実施する観点から定めたものです。 想定人数を超える申込があった場合の(転)入学者の決定方法については、今後、検討会議の議論を踏まえて正式に決定します。	③
12	各学年15名程度は少なすぎると思う。希望する生徒に対して「人数に達したので受け入れられません」という回答はできないと思う。		
13	入校までの手続きや面接ができるだけ負担にならないとよい。	本校の特色を理解した上で入学や転校を検討していただきたいと考えているため、学校説明会や面談、授業体験会等を実施する予定です。具体的な手続等については、いただいたご意見も参考にしつつ、今後、検討会議の議論を踏まえて決定します。	①
【学校の特色1 ゆとりのある学校生活】			
14	休み時間も一人で過ごすことになるのではないかとということも不安要素。気持ち的にしんどい時は早退できるなど、逃げ場があれば嬉しい。	本校では、「一人で過ごしたい」「友達と過ごしたい」など、生徒一人ひとりの意思を尊重するとともに、生徒の状況にも十分配慮した上で、生徒間、生徒・教職員間の良好な関係づくりにも取り組んでいきます。また、本校では通学を基本としますが、体調が優れない場合の登校・在校を無理に強いることはありません。	③
【学校の特色2 安心して過ごせる体制・居場所】			
15	学校に対して恐怖心がある子どもも多く、どのようなケアをしていくかが課題。学校、教員との信頼関係をどう築いていくか。多様な子ども達に対応できる教員の研修は必須。今までの公教育の固定観念や潜在意識をどう書き換えていけるか。	本校に勤務する教職員は、不登校に関する深い理解を有し、生徒一人ひとりに寄り添った支援を実践することなどが求められるため、必要な研修を実施する予定です。また、校内での日常的な情報交換や情報共有を図り、全職員で全校生徒を指導・支援する体制を整えます。	③
16	学校の先生の中には、不登校に十分な理解がない方も多いように思う。不登校に理解のある先生や、大声で子どもを叱らない先生、子どもを怖がらせて教室運営をしない先生が学びの多様化学校に配属されるとよいと思う。		
17	子ども一人一人の成長のサポートが出来るように個別支援計画を作成する。		

18	学校に行きづらい子どもへの理解がある外部のサポートの協力も不可欠。SC、SSWだけでなく医療、福祉、アウトリーチ事業者、親の会など、子どもとその親も含めてチームで支えていける仕組みが必要。	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を配置し、専門的な立場から生徒や保護者を支援できるようにします。その他の関係機関等とも必要な連携を図っていきます。また、保護者対象の研修や意見交流の場を設ける予定です。	①
19	無機質な建物だけに、入りやすい環境づくりも大切。	例えば、教育センターを利用する人と学びの多様化学校に通う生徒の動線を分けたり、施設入口や施設内に植物を配置したりするなど、生徒が安心して過ごせる空間づくりに努めます。	③
20	学びの多様化学校については、学校の授業にある程度ついて行けるような授業や支援、将来を見据えた職場見学などが行われて、それはもちろん大切なことかもしれないが、自由な場所があるのかがとても気になっている。通所が精一杯で、学習や交流が困難な子どもたちが、ただ居られるだけのスペースはあるのか。通うこともやっとの子どもでも、ちょっとした読書や友人との雑談に興じられるような場所があれば、安住を感じられるかもしれない。	本校では、各学年の教室の他に、相談スペースやリラクスペース、軽運動ができるスペースなど、生徒の様々な状況やニーズに対応できる多様な場を設ける予定にしています。図書室・リラクスルームには、一人でゆっくり過ごせる場、友達と談笑できる場などを整備していきます。	①
【学校の特色3 自分らしさを大切にした柔軟で多様な学び】			
21	自然と触れ合える体験、農業体験、または校内菜園、陶芸など様々な体験が豊富にできるとよい。	本校では、総合的な学習の時間「発見！kita究(仮称)」を中心に、体験的・探究的な学びを充実させていくことを目指しています。開校後、生徒の希望も聞きながら、様々な活動を設定していきます。	①
22	中学校の勉強についていけない子への対応はどうするのか。	習熟度別の学習では、一人一台のタブレット端末などを有効に活用し、個に応じた学びを進めることができるようにします。総合的な学習の時間「My time(仮称)」では、どのように学ぶかを生徒自身が選択・決定して、自分のペースで学ぶスタイルを導入します。また、市内の各分野で活躍する人との交流の場も積極的に設けていきたいと考えています。 教職員の配置については、いただいたご意見も参考にしつつ、関係課と検討していきます。	③
23	学習内容について、習熟度別の指導や「My time(仮称)」など個人に合わせた指導が1日の学校の流れの中に書いてあるが、実際の運用としてどのような教材を使って誰が指導するのか。学校の先生では対応できない学習においてどのように対応するのかが不透明。科目を横断する授業や、教科書では学べない生徒に対して教科書ではない別の切り口から指導できる先生を配置したり、探究学習や校外学習においてコーチングやファシリテートができる講師を配置したりした方がよいのではないかな。		
24	人に対して怖い気持ちがあり、コミュニケーションも苦手な子どもにとっては、席の隣同士での答え合わせや意見交換、ペアや班での作業や活動が辛かったり、ストレスや不登校の原因になり得たりするので、そういう面に配慮している授業なのかが気になる。	本校では、授業においても“自分らしさ”を大切にします。安心して学んだり、自分のペースで学んだりできるように、生徒一人ひとりの状況やニーズに応じた支援を講じていきます。	③
その他、本計画には直接かわらないもの			
25	小倉北区にある「ひまわり中学校」とはどう違うのか。	ひまわり中学校は、小倉北区の菊陵中学校内に設置された夜間中学校です。学齢期を超えた人で、「様々な理由により義務教育を修了していない人」「不登校などにより勉強できないまま中学校を卒業した人」「十分な義務教育を受けることができなかった外国籍の人」を対象としています。	④
26	各学校に自由に動ける教員を補充していただきたい。もちろんステップアップルームを運営していただく先生も必要。これから教員になりたいという若い先生と、経験豊富な先生のペアが必要。	関係課に情報提供させていただきます。	④